

# 『賀茂祢宜神主系図』データベースの構築と活用の可能性

山本 宗尚（一般財団法人賀茂県主同族会）

月本 一武（宝塚大学 図書館）

これまで閲覧が困難であった国指定重要文化財『賀茂祢宜神主系図』（賀茂系図）の画像および記載事項をデータベース化し、web公開した（賀茂系図DB）。記載人物の比定や事跡の抽出は原本を逐次的に当たるほかなかったが、いつでも・誰でも賀茂系図を閲覧できる機会を提供するとともに、人名・官職名からの検索も可能となった。本稿では、賀茂系図DBの概要を示すとともに、賀茂系図DBで得られた知見や外部資料との連携の事例、効率的な系図DB項目の提案について述べる。

## Construction and application of a genealogical database "Kamo-negi-Kannushi Keizu"

Munehisa K. Yamamoto (The Foundation of the Kamo-agatanushi Clan)

Kazutake Tsukimoto (Takarazuka University Library)

A genealogical database of the nationally important cultural property "Kamo-negi-Kannushi Keizu" (The genealogical tree scrolls in Kamo-agatanushi Clan) (Kamo-KeizuDB) is constructed and is available through the Internet. In order to identify the member and to refer his brief history, there is no other way to search the original scrolls successively. The Kamo-Keizu DB provides the search bar about his successive names, official name, ranks, and so on. This manuscript describes the contents of Kamo-Keizu DB, new findings such as the order of newly-appointed Shinto priest, an interaction with other historical text, and suggests efficient fields on genealogical DB.

### 1. はじめに

一般財団法人賀茂県主同族会（以下、同族会）が所蔵する国指定重要文化財『賀茂祢宜神主系図』（以下、賀茂系図）は、明治以前の賀茂別雷神社（上賀茂社）社家の事蹟を辿ることができる史料である。賀茂系図は、鎌倉時代の書写である「古系図」一巻、江戸時代初期の写である「中古系図」二巻、古系図・中古系図およびその他史料を以て再吟味し宝永年間に浄書、江戸末期まで書き継がれた「新古系図」十三巻からなる。大山[1]は、「鎌倉時代以来、賀茂社に属した氏人たちは境内六郷の土地を共有し、年齢にしたがって順次これを割り変えていく往来田制度をつくり、神社を維持してきた。賀茂社の氏人系図は、共有地割り変えのための基礎台帳として、厳密に管理され、長く戸籍の役割を果たした」と賀茂系図の特徴を述べた。また、一般に系図は出自の正当性を主張しえない場合、自己を優位とするため事実の改竄や捏造が意図的になされることがあり、史料としての信憑性が乏しいとされる。しかし、賀茂系図は、多数の氏人の監視により自家のみに通用する

独善的な記述は許されなかったと考えられるため、信頼のおける史料として位置づけられている[2]。

上賀茂社では、平成18年に約14,000点におよぶ古文書が国指定重要文化財に指定され、これらの史料を用いた研究がさまざまな分野で始まっている[3]。これ以外にも、各社家が遺した古典籍類は公共機関や大学等にも豊富に残されている。これらに記載された氏人の事蹟は賀茂系図を用いて比定される。しかし、賀茂系図原本の全てを閲覧できる機会は、同族会の年間行事として行われている曝涼のほかにはほとんどない。これまでに賀茂系図を翻刻した刊行本[4]が出版されているが、卒去時の位・官・職、卒年月日・年齢、改名歴以外は省略されているため、叙任日や賞罰等も含む全容を参照することは困難であった。近年、賀茂系図のデジタル複製事業により古系図一巻の複製が作成されたほか、jpeg形式によるデジタル媒体の頒布が行われており[5][6]、系図原本の内容は比較的容易に閲覧できる状態となった。しかし、系図記載人物の特定には、依然画像を順に目で追って検索する以外に方法がなく、名乗

(百官・受領名, これらを受けていない場合は幼名に大夫を付す)のみで記載された場合, 本名の特定は困難を極めていた。

公家社会では, 平安時代末期から鎌倉時代に家格が固定化され(堂上と地下, 堂上の中の摂家・清華家など), 家柄によって昇進できる官位は限定されていた。武家社会でも, 戦国期から江戸期にかけて武家官位が制度化され, 家格の差を可視化した。これら運用基準は, 橋本[7][8]をはじめさまざまな研究者により整理が進んでいる。神社界では, 寛文5年(1665)諸社禰宜神主法度によって社家の位階は吉田家の執奏を受けることが規定された。しかし, 従来伝奏を置く神社はその限りにはなく, 上賀茂社も賀茂伝奏を通じて官位を申請した。吉田家の差配を受けない社家の官位昇進の実態は十分明らかになっておらず, 社家の中で高い家格を保った賀茂社の事例を明らかにすることは意義があると考えられる。

近年, パーソナルコンピュータやインターネットの普及, 計算処理能力の向上によって, 歴史資料の画像公開や全文検索, データベース(DB)化が進んでいる。系図資料をDB化した例に着目すると, 『公卿補任』[9], 『琉球家譜』[10], 『諸家大系図(尊卑分脈)』[11], 平安・鎌倉時代の僧侶[12], などが挙げられる。これらの先行事例では, 単に文献の一次情報を抽出するのではなく, 利用者の目的・用途に合わせた二次情報を抽出・加工できることが追求され, 関係DBに導入可能な項目の検討が進められた。相田[12]は「今後, 人名典拠録に代表される人物に関するアーカイブを充実させるためには, 系図・系譜についての情報は不可欠であろう。そのためにも, 系図を管理するアプリケーション, データベース, そして, そのデータ交換のための標準的プロトコルの確立が, ますます重要になる」と述べている。しかし, 未だにこれらが達成されていないのが現状である。

山本・芝[13]は, 新古系図を対象としたDB(山本版賀茂系図DB)を作成した。このDBを基に, 同族会では公益財団法人図書館振興財団の助成を得て, 賀茂系図記載の人名・官職名と事蹟に関するキーワードから該当部分の系図画像にリンクするコンテンツを構築し, デジタルアーカイブシステムADEAC(A System of Digitalization and Exhibition for Archive Collections)を通じてweb公開[14](図1)した(以降, 本稿では明記がない限り, 「賀茂



図1 賀茂系図DBのホームページ  
Figure 1 Home page at Kamo-keizu DB.

系図DB」はこちらを指す)。これにより, いつでも・誰でも賀茂系図を閲覧できる機会を提供するとともに, 人名・官職名からの検索が可能となった。

本稿は, 賀茂系図DBの概要について説明し, これを通じた外部史資料活用の可能性やデータベースを利用した近世の上賀茂社社家の動向に対する新たな知見について述べる。また, 賀茂系図のさらなる活用に向けたプロトコルの提案を行う。

## 2. 賀茂系図の記載事項

賀茂系図の記載事項を理解する前提として, 後に述べる社司・氏人組織の歴史の変遷を理解する必要がある。しかし, 紙面の制限のため, 本章では山本・芝[13]を元に, 賀茂系図DBの対象となる17世紀中頃以降の制度を概観する。歴史の変遷を含めた賀茂系図についての詳細な解説は, 藤木[15]を参照されたい。

賀茂系図の記載事項を図2に示す。賀茂系図は大きく三つの部分からなる。一つめは, 記載者の名前と略歴に関する部分(①)で, 本名と卒去時の位階(位)・百官(官)・社職(職)が記される。職は上賀茂社の祠官とそれ以外のいくつかの所役・地下官人に大別される。ただし, 改名歴と官名は, 名乗を明らかにするためすべて記載される。二つめは, 上賀茂社家として受けた口宣案(現在の位記・官記に相当)記載事項の写しである(②)。記載名の左(記載場所が足りない場合は上に別記されることもある)に記され, 叙任年月日・位官職・上卿および職事(発行事務官名)が記される。上賀茂社は従前より賀茂伝奏の差配を受けるため, 上卿およ

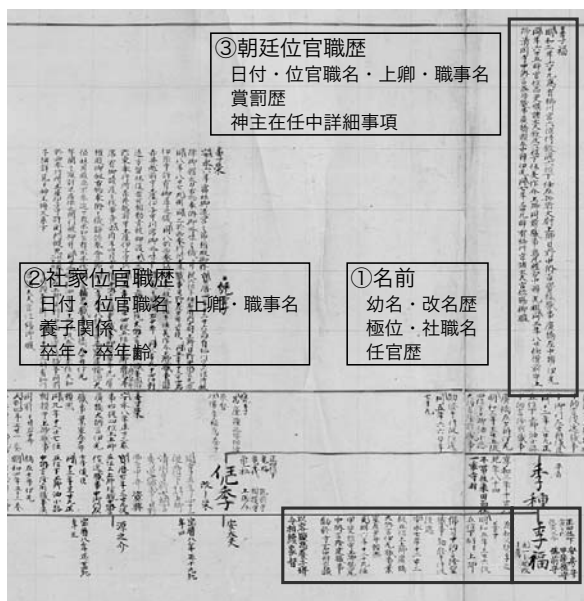


図 2 賀茂系図のうち、季福（賀茂季鷹）記載部分  
Figure 2 An item of Kamo-keizu.



図 3 賀茂系図 DB の本文表示画面  
Figure 3 A text part at Kamo-keizu DB.

び職事は例外なく賀茂伝奏と賀茂奉行となる。養子（養父・養子両者に記載される）と卒去日および年齢はここに記される。そのほか、賞罰や神主在任中の事歴（遷宮や大きな事件の概要）はここに記される。三つめは、朝廷の官人として受けた口宣案記載事項の写しである（③）。記載事項は上賀茂社のそれと同様であるが、記載名の上に記される。上賀茂社の氏人の中には、

北面や親王家・門跡寺院・上級公卿の諸大夫などの地下官人として朝廷に出仕するものが相当数あった（幕末には 60 名に及ぶ）[16]。地下官人は上賀茂社とは別に位官職を得ており、一人で二つの独立した位官職を保持している。このような例は上賀茂社社家を除いてほとんど見られない。

位・官・職についてはすでに明らかになっていることをここで要約する。上賀茂社の位階は従五位下を初叙とし、七家は 9 歳、氏人は 15 歳から申請できる。神主以下上級の祠職に就ける七家は正三位、それ以外の氏人は正四位下（社司となった者は正四位上）を極位とする。中 3 年で直上の位が申請できた。

官職（百官・受領）は名乗りに用いられたが、賀茂系図凡例によると、精進頭人（一年交替で神事に専念する役）を務め終わると四等官（守・介など）を付して名乗ることが許され、系図にも記載された。そうでない場合は幼名と共に記される例となっている。

上賀茂社の社職は、本社を頂点として片岡社から氏神社まで序列化されており、本社には神主・正祢宜・正祝・権祢宜・権祝（五官）、片岡社以下八社にはそれぞれ祢宜と祝が置かれていた（社司廿一職）。死去・辞職等により社司が欠けた場合、服忌等を除き、その次席以下の社司は序列を保ったまま昇格することとなっていた（次第転補）。ただし、本社五官と片岡・貴布祢の両官の計九官（貴布祢社以上社司）は七家から、新宮社以下六社の祢宜・祝十二職（新宮社以下社司）は七家以外から選任して補職することが、寛文 4 年（1664）に幕府から出された御裁許状によって定められた。すなわち、社司は必ず貴布祢祝または氏神祝が初補であり、社司がどのように人選されたかを理解するには、神主の補職順ではなく、この二職の補任順を明らかにしなければならないことになる。

### 3. 賀茂系図データベースの概要

賀茂系図 DB の構築検索システムはデジタルアーカイブシステム「ADEAC」に搭載されている。賀茂系図 DB の構造を表 1 に示す。系図記載人名別に個人番号を振り、改名歴、位官職、卒年月日、父子・養子関係、他資料掲載頁をまとめた本文と、叙位・任官・補職等の年月日をまとめた年表とに分けて DB 化した。利活用の便を図るため、百官・社職別に索引を付したページを設けている。人名・官職名から検索する

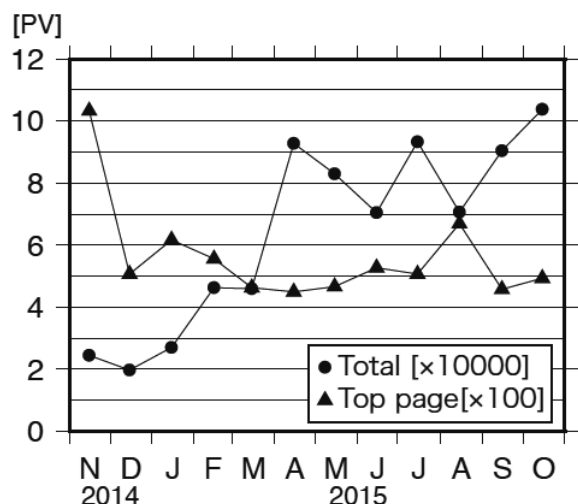


図 4 賀茂系図 DB のアクセス数の推移。丸は総画面アクセス数、三角はトップページアクセス数で、縦軸数字のそれぞれ 10000 倍、100 倍。

Figure 4 Time series of (circle) total and (triangle) top page view at Kamo-keizu DB.

と記載人物の候補が表示され、その中から該当人物を選べると本文が表示される (図 3)。年表検索は、西暦から年代を特定することができる。全ての記載人物に対して賀茂系図のデジタル画像へのリンクが貼られている。系図画像はクリックで拡大・縮小が可能で、一部画像は高精度撮影され、記載画像の位置情報を付して該当人物の画面が中心に表示される。

賀茂系図 DB の特徴をいくつか挙げる。一点目は、上賀茂社家または地下官人として受けた位官職を区別して記載 (賀茂位・朝廷位・賀茂官ほか) した点である。先に述べたように、上賀茂社の社家は一人で二つの位官職を帯びている場合があるため、単なる全文 DB では経歴を辿ることが不可能になる。二点目は、DB としては効率化の面で劣るにもかかわらず、本文に位官職の履歴を記載したことである。古文書には本名が記載されることはそれほどなく、名乗を記すことの方が多い。さらに、名乗に加え本名は年代によって変わることがままあるため、名前を検索するにはこれらを同一のフォームに記載しておく必要があったためである。三点目は、父子・養子を本文に記載したことである。父子は社家の序列関係を、養子はイエの継承関係を表すためである。

#### 4. 公開の実際

賀茂系図 DB が公開された 2014 年 11 月以降の web ページアクセス数を図 4 に示す。アクセス延べ人数の参考となるトップ画面のアク

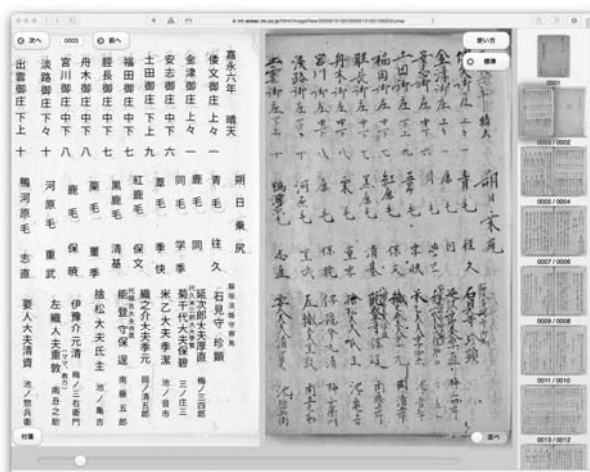


図 5 ADEAC に搭載された『足汰競馬会雑記』の画像と翻刻の表示画面

Figure 5 A part of "Ashisoroe kurabeumae zakki" on ADEAC.

セスは約 500PV/月、総画面に対するアクセス数は 8~9 万 PV/月で推移している。ロボット検索も含まれているため実数は不明であるが、上賀茂社家の後裔が系図記載人物である先祖を検索するケースが大半を占めるとみられる。

賀茂系図 DB の検索結果を評価するため、馬の博物館所蔵『足汰競馬会雑記』(以下、雑記) に記載された人物のべ 889 名の比定を行った。競馬会とは、上賀茂神社で毎年 5 月 5 日に催行される古式競馬の神事で、寛治 7 年 (1093) に堀河天皇の御勅願により宮中の儀式一切を遷されたものとされている。5 月 5 日の競馬神事に先立ち、出走順を決めるための足汰式が 5 月 1 日に催される。『雑記』には、嘉永 6 年 (1853) から文久 2 年 (1862) までの賀茂競馬足汰式および賀茂競馬に奉仕した乗尻 (騎手) と所役名が記載されている。まず、記載人物名を検索したが、検索結果のほとんどは一意に決まらなかった。これは、名前の選択に制限 (音の善し悪しや古典の出典、五行など) があつたり、先祖の名を重用する例が多いためである [18]。また、記載時期が幕末で卒年の記載が略されているため生没年による比定は困難であった。ただし、名乗が重複する事例はなかったため、人名と名乗を組み合わせることによって一意に比定することができた。「ADEAC」には『雑記』のデジタル化および翻刻を、全文検索を付して搭載し、さらに賀茂系図 DB との人名リンクを施した。画像と翻刻は横に並べるほか重ねて表示することも可能となっている (図 5)。

そのほか、賀茂系図 DB を利用し、本社・摂社の祭礼を司る社司廿一職の補任状況が復元された[19]。19世紀前後より賀茂系図の記載が簡略化されていたが、同族会文書に残された下書きと次第転補のルールから復元できること、貴布祢社以上社司の補任順が、卒去した社司の相続人、上位社司家の推定相続人であること、などが明らかとなった。

## 5. 外部史資料との相互活用

賀茂系図との横断検索の効果を検証するため、『雑記』に記載された乗尻および所役の年齢構成を調査した。山本[17]は18世紀初頭の乗尻が記載された別史料を用いて21年分の乗尻と所役の変遷をまとめたが、賀茂系図 DB 構築前であったため年齢を調査したのは1名に留まっていた。現在、乗尻は中学生(12歳前後)から40歳頃、介助役である扶持は小学校高学年(9~12歳)であるが、19世紀中頃当時はそれぞれおおむね40歳以上、15歳以上で、現在の奉仕者に比べて高齢であった。馬上安全を祈願する階下の選出方法は不明とされたが、賀茂系図 DB からまとめた所役の一覧から、代官の上位2名が勤めていたことが明らかとなった。

また、「ADEAC」に掲載されている他所蔵史料に上賀茂社に関する記載事項を検索したところ、以下の事項が該当した。外部史資料との連携によって、かつて上賀茂社の庄園であったり祭神を勧請した地方社、上賀茂社が輩出した能書や歌人の門弟に関する情報が得られることが明らかとなった。

- ・栃木県南那須町大字月次字鳴井の加茂神社は和銅四年(七一)に上賀茂社から勧請されたと伝えられ、別雷神を祀る(高根沢町史)。
- ・加賀・能登における空前絶後の歌人として推される田中躬之は賀茂季鷹に学んだ(石川県史)。
- ・石川県江沼郡那谷寺十代住職であった弗隠が詠んだ『志良山百首』に賀茂季鷹が序を作った(石川県史)。
- ・書を以て加賀藩に仕えた佐々木志頭摩は、藤木甲斐(藤木敦直)の門人であった(石川県史)。
- ・静岡県岡部郷の地頭職は、文永十一年(一二七四)六月以前に片岡社の社領であり、祝片岡師重の女筑前局が知行していた。筑前局は、後堀川天皇に仕えていてこれの代官職を知行していた。師重の子孫でここに土着した人

の後胤が賀茂真淵である(浜松市史)。

## 6. 系譜データの効率化

人物に関するアーカイブを充実させるには、さまざまな系譜資料のデータ交換が可能な、効率的な共通プロトコルの構築が不可欠となる。これによって資料間の横断検索が可能となり、情報学的な処理によって新たな知見が得られることが期待される。近年、オープンデータを基盤としたオープンサイエンスの推進が進みつつあり、多種多様な史資料活用の観点からも、このような検討は必要であると思われる。本章では系譜データの効率的に構造化について検討する。

賀茂系図以外にも公家や武家等では同様の系図は数多く残されており、はじめに挙げたように賀茂系図と同質の系譜もいくつか存在する。上賀茂社に関連したものに着目すると、公卿(従三位以上で太政大臣以下の高官)に相当する者の名前を官職順に列挙した『公卿補任』や、地下官人の補任日を官職順・家別に列挙した『地下家伝』が挙げられる。上賀茂社では従三位以上に叙された者は『公卿補任』に非参議として記され、地下官人に任じられた者は『地下家伝』に記載されている。

『公卿補任』のうち平安時代前・中期の公卿に対して、五島[8]は関係データベースの構築を試みた。このとき、史料をDB化するに際しての問題点を、「これを普通の史料のように、本文のまま電子テキスト(いわゆる本文データベース)にしても無意味だということである。それは、『公卿補任』の情報が、公卿の官職の任官や解官、叙位といった構造の中で理解されて、はじめて意味をもつものであって、本文テキスト中の語句を検索しても、それだけでは全体の構造の中での語句の位置付けが明らかにならないからである」とした。山本版系図DBはこれに改良を加えて構築されている。

国文学研究資料館電子資料館では、「古典学統合データベース」を構築している。系譜関係では芳賀矢一(1867-1927)編『日本人名辞典』(1914)と三上景文著;正宗敦夫(1881-1958)編纂校訂『地下家伝』(日本古典全集刊行会、1937.9-1938.8)6冊をDB化したものをweb公開し、同じく同館が公開している「歴史人物画像データベース」にもリンクされている。40項目を越える事項に分類されているため、完全な本文DBではないが、記載順にレコードIDが割り振られているため、一人で複数のIDを

持っていたり、年月日が数値化されていないなど、位官職が業績に割り振られているなど、効率化の余地があるように見受けられる。

先行研究を基に、賀茂人物 DB として最も効率的と考えられるテーブルと項目の一覧を表 2 に示し、特徴を以下にまとめる。

- 基本構造は賀茂系図 DB と同じように、記載人物の個人情報をもとめた本文と、位官職や記載事項をもとめた年表に分けることが人物の比定と期間による検索が利用でき最も効率的であると考えられる。
- 位官職は、それぞれの違いと対象（社家の官位か地下官人か）、異動の有無（叙任された日付か当日時点の地位か）、期間（兼任を考慮に入れるため）の項は必須となる。
- 日付は、元号の通し番号と元年の西暦を別のテーブルで用意し、閏月の有無の項を立てれば期間の自動計算が可能となる。
- 資料名の項を追加すると関連資料による情報の追加を可能となり、比定の精度が向上する。

## 7. まとめ

賀茂系図 DB が構築・公開され、いつでも・誰でも賀茂系図を閲覧できる機会が提供された。系図記載人物の比定が大幅に軽減され、近世における賀茂社運営システムや、神事奉仕者の年齢分布が明らかになった。他資料に対して個人 ID を付与できれば、DB を活用した新たな知見の発見と、横断検索による研究深化にもつながることが実証された。

本稿で提案した、効率化された DB の構造は、山本版賀茂系図 DB に反映した上で、SQL サーバ上で実装する予定である。個人 ID の付与方法を考慮し、氏姓を付与すれば、賀茂氏に限らず他社、公卿、武家等にも応用することができ、包括的な歴史人物データベースの構築も可能になると考えられる。また、他資料を利用して官職の補任のみならず、現職の日付が付与できれば、DB の精度が向上することが期待できる。

## 謝辞

本研究は、公益財団法人図書館振興財団平成 25 年度提案型助成事業「『賀茂祢宜神主系図』デジタル化及び公開事業」の助成を受けて実施された。

## 参考文献

- 1) 大山喬平：ゆるやかなカースト社会・中世

- 日本. 校倉書房, 448pp (2003) .
- 2) 嵯峨井健：神仏習合の歴史と儀礼空間. 思文閣出版, 428pp (2013) .
- 3) 大山喬平 (監修)：上賀茂のもり・やしろ・まつり. 思文閣出版, 412pp (2008) .
- 4) 神道大系編纂会 (編)：神道大系 神社編八賀茂, 神道大系編纂会, 649pp (1984) .
- 5) 賀茂縣主同族会 (編)：賀茂祢宜神主系図. 賀茂縣主同族会, CD-ROM (2004) .
- 6) 賀茂縣主同族会 (編)：賀茂縣主系図. 賀茂縣主同族会, DVD-ROM (2007) .
- 7) 橋本政宣：近世公家社会の研究, 吉川弘文館, 889pp (2002) .
- 8) 橋本政宣：近世武家官位の研究, 続群書類従完成会, 547pp (1999) .
- 9) 五島邦治：『公卿補任』データベースの基礎的研究, 平成 10~12 年度科学研究費補助金基盤研究(C)(2)研究成果報告書, 57pp (2001) .
- 10) 樋谷猪久夫：文書データベースにおける検索機能の設計と実現-琉球家譜における事例-, 人文科学とコンピュータ, Vol. 32, pp. 43-48 (1996) .
- 11) 富金原賢次, 須方嘉彦, 森本光洋, 宇都宮啓吾, 森川弘信, 田中猛彦, 中川優：関係データベースを用いた平安・鎌倉時代僧侶検索システムの構築, 情報処理学会研究報告ソフトウェア工学, Vol. 23, pp. 41-48 (2002) .
- 12) 相田満：日本古典系図データベースの構築. 人文科学とコンピュータ, Vol. 67, pp. 39-46 (2001) .
- 13) 山本宗尚, 芝 宏至：『賀茂祢宜神主系図』データベースの作成と近世上賀茂社家の基本統計調査 (1) 系図とデータベースの概要. みたらしのうたかた (賀茂歴史勉強会文集), Vol. 8, pp.35-40 (2008) .
- 14) ADEAC: 賀茂県主同族会 (上賀茂神社) 賀茂祢宜神主系図ほか  
(<https://trc-adeac.trc.co.jp/wj11c0/wjjs02u/2600515100>) (参照 2015-09-01) .
- 15) 藤木文雄：賀茂縣主系図について：解説. 賀茂縣主同族会, 23pp (2005) .
- 16) 山本宗尚：地下官人賀茂季鷹と賀茂の氏人たち. 賀茂文化, Vol. 4, pp. 25-33 (2007) .
- 17) 山本宗尚：賀茂競馬の乗尻・所役と馬所. 賀茂文化, Vol. 3, pp.18-27 (2006) .
- 18) 井之口有一：京都賀茂社家十六流の名乗の研究-社家の言語生活の調査研究(2)-, 聖母女学院短期大学児童教育科研究紀要, Vol. 2, pp. 19-32 (1973) .
- 19) 山本宗尚：『賀茂祢宜神主系図』データベースの構築と社司等補任の復元, 第 21 回神社史料研究会サマーセミナー, 明治神宮 (2015) .

表 1 賀茂系図 DB の構造

Table 1 Contents of Kamo-keizu DB.

## ○本文

フィールド名	型	備考
個人ID	int	流*1000+通し番号
名前	char	系図記載名
神道大系記載頁	int	『神道大系』[1]の該当頁
DVD	int	『賀茂県主系図』[2]のファイル名
世代	int	各流筆頭記載社を一代として何代目か 実父IDを辿り世代を求めるコードを作成
卒年月日	char	尻付を転記*1
享年	char	尻付を転記*2
極位	char	卒去時の位階
社職極官	char	卒去時の社職
賀茂社諸役人	char	賀茂社内の役職の一部で系図に記されたもの
地下官人	char	宮中における諸役人名
苗字	char	『賀茂県主年齢次第』等で判明しているもの
改名	char	尻付に記載された幼名・改名歴*4
実父	char	系線を参照
子供	char	系線を参照*4
養子	char	尻付を転記*4
賀茂位	char	尻付を転記*3, 4
賀茂官	char	尻付を転記*3, 4
賀茂職	char	尻付を転記*3, 4
朝廷位	char	尻付を転記*3, 4
朝廷官	char	尻付を転記*3, 4
朝廷職	char	尻付を転記*3, 4
備考	char	尻付を転記

## ○年表

フィールド名	型	備考
個人ID	int	流*1000+通し番号
刊本	char	典拠史料名
元号年	char	尻付を転記
西暦年	int	換算表を参照
月	int	尻付を転記
日	int	尻付を転記, 閏月は50を追加
備考	char	尻付を転記
事項文	char	尻付を転記

\*1: フォーマットは“元号yy年 (yyyy) mm月dd日”

\*2: フォーマットは“yy歳”

\*3: フォーマットは“位官職名 ([賀茂, 朝廷][位, 官, 職], 元号yy年 (yyyy) mm月dd日) ”

\*4: 複数ある場合はコンマで区切る

表 2 効率的と考えられる賀茂系図 DB の構造  
 Table 2 An efficient contents of  
 Kamo-keizu DB.

○本文			○改名		
フィールド名	型	備考	フィールド名	型	備考
個人ID	int	流*1000+通し番号	個人ID	int	流*1000+通し番号
名前	char	系図記載名	種別・続柄	char	幼・元・改・養子・養父など
フリガナ	char	判明している場合記載	対象個人ID	int	
神道大系記載頁	int	『神道大系』[1]の該当頁	備考	char	
DVD	int	『賀茂県主系図』[2]のファイル名			
生年元号ID	int	元号-西暦テーブルと関連づけ			
生年元号年	int				
生年月	int				
生年日	int	閏月は50を追加			
卒年元号ID	int	元号-西暦テーブルと関連づけ			
卒年元号年	int				
卒年月	int				
卒年日	int	閏月は50を追加			
実父名	char				
実父ID	int	系線を参照			
実母名	char				
備考					

○位官職年表			○事項年表		
フィールド名	型	備考	フィールド名	型	備考
個人ID	int	流*1000+通し番号	個人ID	int	流*1000+通し番号
賀茂or朝廷	char	賀茂・朝廷	賀茂or朝廷	char	賀茂・朝廷
異動事項	char	叙・任・転・現など	異動事項	char	叙・任・転など
位官職	char	位・官・職	位官職	char	位・官・職
位官職名	char		位官職名	char	
開始元号	int	元号-西暦テーブルと関連づけ	元号	int	元号-西暦テーブルと関連づけ
開始元号年	int		元号年	int	
開始月	int		月	int	
開始日	int	閏月は50を追加	日	int	閏月は50を追加
終了元号	int	元号-西暦テーブルと関連づけ	備考		
終了元号年	int				
終了月	int				
終了日	int	閏月は50を追加			
備考					

○元号-西暦		
フィールド名	型	備考
元号ID	int	
元号名	char	
元年西暦	int	